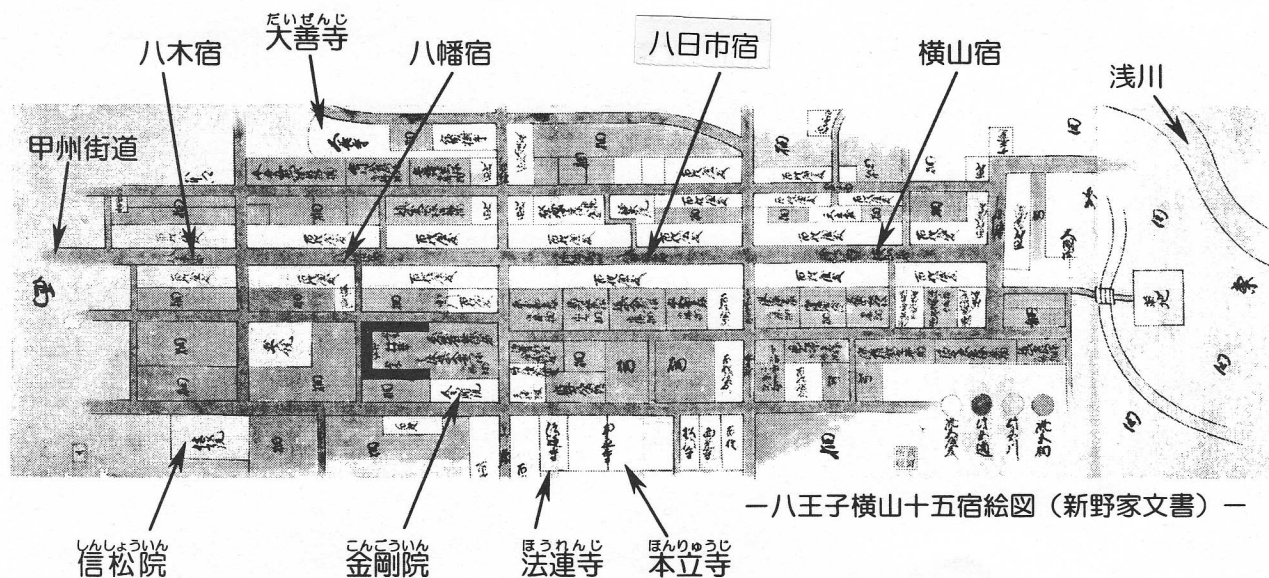


八王子の宿と市

江戸時代の八王子は、甲州街道の宿場町でした。八王子宿は、十五の宿場からなり、横山宿と八日市宿を中心に発展しました。はじめは、横山とよばれていましたが、しだいに八王子とよばれるようになりました。江戸に行く人々や富士山や高尾山に行く人々が通り、街道に沿って、はたご（旅館）がたちならびとてもにぎやかでした。毎月4のつく日は横山宿で、8のつく日は八日市宿で市がひらかれました。市には、八王子周辺の村々から絹織物・紙・穀物・塩・太物とよばれる綿織物などたくさんの商品が集まり、これを買う人でにぎわいました。なかでも絹織物の取引がだんだんとさかんになりました。



—織物の取引きのようす—

売り手が、台の上に乗った買い手（綿買と呼ばれた）に織物を見せているところ。織物の取引きは、朝8時ごろから、10時ごろの間に行われた。

桑都朝市
(極楽寺本『桑都日記』)